

見発新下堂嘉静 瓦版

後藤象二郎が英国ビクトリア女王より 拝領のサーベル初公開

永らく行方不明とされてきた後藤象二郎拝領のサーベル（1868年ロンドン製）が東京世田谷の静嘉堂で発見された。幕末に英国公使パークスを刺客から守った感謝のしるしとして英国ビクトリア女王から賜った品。発見されたサーベルは総長95・7cm、19世紀英国陸軍の兵仗のサーベルと同形式と考えられる儀仗刀。刀身は鉄製で湾刀の姿。刃はついていない。唐草模様を総体に彫り込み、柄は象牙彫刻、柄頭はライオンの頭の形に彫りだす。表の中央部に、3月23日の襲撃事件での奮戦を記念する後藤象二郎宛ての贈答である旨、下記英文を彫り込む。

1868年3月23日、京都で明治天皇に拝謁しようとする英国公使ハリー・パークスを二人の攘夷派志士が襲撃する事件が発生した。日英両国の護衛を加えて千人を超す英国公使の隊列は、二人の暴漢に急襲され混乱に陥ったが、新政府の接待係、土佐藩士後藤象二郎と薩摩藩士中井弘の奮戦で暴漢は打ち取られ、パークスは無事であった。

英国側負傷者は10名余り。犯行に及んだ攘夷志士のうち一人は即死、一人は逮捕、後斬首され、「最後の攘夷事件」となった。パークスは3日後に、明治天皇との謁見を無事に済ませた。新政府からの謝罪と補償提案に対して英国側は不問とし、近代日英外交の第一歩となった。

